

【岐阜女子大学】メタデータ項目と記述内容

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	与那原町の自然
3	資料名	運玉森
4	内容分類	自然・景観
5	索引語	与那原町 西原町 歴史 沖縄戦 運玉森 平和学習
6	説明	<p>■運玉森について</p> <p>中城湾に面した与那原町の東南には雨乞森（133m）、北西には運玉森（標高158.1m）という山並みがひかえている。とくに、運玉森（うんたまムイ）は与那原町と西原町の境にある標高158.1mの森で、与那原小学校や与那原東小学校の校歌にも歌われ町民にも親しまれている。また、運玉森は、西原町に伝わる民話に登場する義賊「ウンタマギルー（運玉義留）」が隠れ住んでいた場所として伝説になっている。</p> <p>現在の運玉森は道が整備され、2024年3月には運玉森の頂上に平和広場が設けられている。与那原町の公式サイトには、与那原町役場から運玉森の頂上までルート案内が掲載され、案内板や駐車場なども整備されて安全に訪れることができるようになっている。</p> <p>平和広場は戦争について学ぶ場所として地域の学校や住民による学習活動に利用され、与那原市民にとって沖縄の過去と現在を結ぶ大切な場所となっている。</p> <p>■運玉森の伝説</p> <p>昔、運玉義留（うんたまぎるー）という若者がいた。彼は働き者であったが身分が低く、身分制度の厳しかった琉球ではどれほど努力しても出世はできなかった。「それならば泥棒になって名を残そう」と決意をし、森にこもり泥棒になるための特訓をした。その場所が「運玉森（ウンタマムイ）」で隠れた場所として伝えられている。彼は裕福な人達から金品を盗み、それを貧しい人々に分け与えていた。</p> <p>この伝承は実際に義留という人物が存在したかは不明であるが、沖縄芝居などの題材にもなっている。</p> <p>■運玉森と沖縄戦</p> <p>与那原町と西原町の境にある運玉森での戦闘は、沖縄戦における激しい攻防戦のひとつとして知られている。</p> <p>1945年（昭和20）5月13日、中城湾を拠点にした米軍が、運玉森の日本軍陣地を攻撃し始めたことがはじまりである。運玉森は首里司令部の東方に</p>

		<p>位置し、与那原から首里へ行く重要な道があり、およそ 1,000 人の日本軍が臼砲や 75 mm 砲などの装備をして守備陣をはっていた。</p> <p>米軍は 5 月 11 日、運玉森を攻撃する前に、北側の高地に総攻撃を仕掛けた。その後、日本軍のいくつかの陣地を壊しながら手投弾を使った戦闘を続け、少しずつ運玉森に近づいたとされている。</p> <p>しかし、運玉森の陣地から激しい臼砲の攻撃を受け、やむなく撤退した。その後、米軍は戦車を投入して再び進もうとしたが、砲撃戦で弾薬が尽き、補給もできずに孤立する部隊や、機関銃攻撃で 1 小隊がほぼ全滅するなど、両軍にとって非常に激しい戦いとなった。</p> <p>5 月 13 日以降、米軍は物量を活かした総攻撃で徐々に包囲を縮めた。米海軍は中城湾から激しい艦砲射撃を加え、その砲弾の量はあまりに多く、兵士たちは運玉森を「百万ドルの山」と呼んだほどであった。</p> <p>5 月 20 日、激しい戦闘の末、手投弾や肉弾戦を繰り返し、米軍は運玉森の最高地点と隣の山との間にある陣地を占領した。</p> <p>この戦闘では 1,100 個を上回る手投弾を使い果たしたといわれている。そして 5 月 21 日、夜間の奇襲攻撃を繰り返しながら米軍はついに運玉森の東側斜面を完全に制圧した。</p> <p>参考資料</p> <p>沖縄県与那原町史編集委員会,『与那原町史 戦時記録編 与那原の沖縄戦』,沖縄県与那原町教育委員会, 2011 年.</p> <p>下中直人,『日本歴史地名大系第 48 卷 沖縄県の地名』,株式会社平凡社, 2002.</p> <p>与那原町ホームページ, 与那原紙芝居,『運玉義留と金の枕』 https://www.town.yonabaru.okinawa.jp/yonabaru_kamishibai/untama/index.html</p>
7	形式	静止画 (jpg)
8	氏名	與那嶺叶
9	時代・年	撮影日 :
10	地域・場所	沖縄県島尻郡与那原町与那原
11	利用条件	表示 4.0 国際 (CC BY4.0)
12	関連資料	
13	権利者	岐阜女子大学
14	協力者	
15	登録日	2025/10/27
16	登録者	與那嶺叶

17	ファクトデータ	 <p>circd087v-0004.jpg</p>									
18	*特色	<p>■激戦地の名称</p> <p>米軍は、沖縄戦で激戦地だった山や丘のことを他の呼び名で読んでいた。与那原にある運玉森は円錐形の形をしていたため、「コニカル・ヒル」と呼ばれていた。他にも米軍は地形にちなんで名前を付けており、首里の弁々岳は「チヨコレート・ドロップ」、現在の那覇新都心あたりは「シュガーローフ・ヒル（砂糖のかたまりの丘）」と呼んでいた。</p> <p>一方、日本軍は標高をもとに、運玉森を「158.1高地」と呼んでいた。</p> <p>■与那原小学校の校歌</p> <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 33%;">三</td> <td style="width: 33%;">二</td> <td style="width: 33%;">一</td> </tr> <tr> <td>住みよい世界を なぎの海路は遠くない 中城湾の雨風に めげずそだつた与那原児 きずこうよ</td> <td>運玉森に霧晴れて 青空すんでき かがやく沖縄 歌おうよ</td> <td>朝日にはえる わが母校 たからかに わが母校 になおうよ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>昔ゆかりの親川で 産湯つかつた君と僕 心みがいて身をきたえ あしたの町を になおうよ</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">校歌</p> <p style="text-align: right;">作詞 山田有功 作曲 渡久地政一</p> <p>(与那原小学校ホームページより)</p> <p>■与那原東小学校の校歌</p>	三	二	一	住みよい世界を なぎの海路は遠くない 中城湾の雨風に めげずそだつた与那原児 きずこうよ	運玉森に霧晴れて 青空すんでき かがやく沖縄 歌おうよ	朝日にはえる わが母校 たからかに わが母校 になおうよ			昔ゆかりの親川で 産湯つかつた君と僕 心みがいて身をきたえ あしたの町を になおうよ
三	二	一									
住みよい世界を なぎの海路は遠くない 中城湾の雨風に めげずそだつた与那原児 きずこうよ	運玉森に霧晴れて 青空すんでき かがやく沖縄 歌おうよ	朝日にはえる わが母校 たからかに わが母校 になおうよ									
		昔ゆかりの親川で 産湯つかつた君と僕 心みがいて身をきたえ あしたの町を になおうよ									

校歌

作詞 上原 良知
作曲 城間 繁知

一、朝日二ライの海に燃え
迎玉森を通か見る
崎原の野にそびえたつ
白雲の学び舎我が母校
与那原東小学校

(与那原東小学校ホームページより)

19	*活用支援	
20	*利用分野	教育、地域学習、生涯学習、平和学習
21	*改善結果	
22	*処理プロセス	
23	*関連資料	